

# 2015 年香港の日本語学習者背景調査

## The survey of Japanese language learners in Hong Kong

山下 直子/梁 安玉/劉 礪志/李 澤森/李 夢娟  
香港日本語教育研究会

### 要旨

本報告は香港の日本語学習者を対象に 2010 年より実施してきた調査に続き、2015 年の日本語学習者の背景、およびその変化を把握するために行った調査報告である。

調査は「日本に関するイメージ」「香港における将来の学習者数の予想とその理由」「日本語学習の目的」「日本語学習のきっかけ」について質問調査紙によって行った。

その結果、「日本に関するイメージ」は全体的に向上していた。円安の影響もあり、日本旅行をきっかけに日本語の学習をはじめた人が多いことがわかった。また、日本の文化に興味・関心があり、日本語を学習している人が多い一方、留学や就職のために日本語を学習している人の割合は高くなく、英語や中国語以外の語学能力を身につけたいために日本語を学習している人が多いことがわかった。

### キーワード

香港、日本語学習者、学習目的、きっかけ

# 2015年香港の日本語学習者背景調査

山下 直子/梁 安玉/劉 礪志/李 澤森/李 夢娟

香港日本語教育研究会

## 1. はじめに

香港日本語教育研究会（以下、研究会）は、2010年より香港の日本語学習者を対象とし、学習者の特性を把握する調査（木山ほか 2011）、日本語能力試験受験者減少の要因を探る調査（宇田川ほか 2013）、学習者減少の要因を探る調査（宇田川ほか 2014）、言語学習ピリーフの調査（宇田川ほか 2015）を実施、報告してきた。本調査はこれまでの調査を踏まえ、2015年の香港日本語学習者の背景変化を把握するために実施した。

香港の日本語能力試験（以下、JLPT）の応募者は、2009年の20,637人を最高に翌2010年14,559人、約3割（29.45%）と顕著に減少したが、その後全体的には安定してきているように見えると報告されている（劉 2013、2014）。JLPTは、2010年から新試験となり、1級から4級の4レベルからN1からN5の5レベルになった。そこで、新しいレベル別の応募者数を見してみる（表1）。香港・マカオ地区におけるN1とN2の応募者数は、2010年以降増減を繰り返している。N3応募者は2013年に増加したもののその後減少している。N4応募者は2011年に対前年比24.2%増加したが、その後減少し続けている。N5応募者は2013年まで減少が続いていたが、2014年に増加に転じ、2015年も引き続き増加している。N5レベルの対2013年増加率は177.6%である。N5応募者の増加は、ここ1年前後新たに日本語を学習しはじめた学習者と予想される。2015年に入り、香港の日本語教育機関関係者の間では、学習者が増加傾向であるという声も聞かれるため、研究会は本調査において、特にN5レベルに注目することにした。

表1 香港・マカオ地区における JLPT 応募者数の変化

	2010年 (A)	2011年 (B)	前年比 (B-A)	2012年 (C)	前年比 (C-B)	2013年 (D)	前年比 (D-C)	2014年 (E)	前年比 (E-D)	2015年 (F)	前年比 (F-E)
N1	2,460	2,470	10	2,327	-143	2,326	-1	2,575	249	2,661	86
N2	3,221	3,011	-210	2,669	-342	2,678	9	2,741	63	2,717	-24
N3	2,504	2,485	-19	2,312	-173	2,494	182	2,390	-104	2,243	-147
N4	2,755	3,421	666	2,888	-533	2,700	-188	2,458	-242	2,343	-115
N5	3,619	3,202	-417	2,700	-502	2,348	-352	2,445	97	2,718	273
計	14,559	14,589	30	12,896	-1,693	12,546	-350	12,609	63	12,682	73

## 2. 目的

本調査は、以下4つの観点より2015年の香港日本語学習者の背景、およびその変化を把握することを目的とする。

- (1) 日本に関するイメージ
- (2) 香港における将来の学習者数の予想とその理由
- (3) 日本語学習の目的
- (4) 日本語学習のきっかけ

(1) から (3) はこれまでの調査 (木山ほか 2011、宇田川ほか 2013、2014) と同じ質問項目である。(4) は本調査で新たに追加した項目である。新たな日本語学習者と予想される N5 レベルの学習者の増加が続くと仮定すると、これまでの調査結果と比較し、学習のきっかけを知ることで、最近の日本語学習者背景の詳細を把握することができる。

### 3. 先行研究

香港の日本語学習の目的に関する先行研究としては、木山ほか (2011)、国際交流基金 (2013)、宇田川ほか (2013、2014) などがある。宇田川ほか (2014) では、2012 年 11 月と、2013 年 6 月実施の調査で共通する N5 レベルの結果を比較している。また、香港における社会人日本語学習者の動機の変化に関してはギブソン (2009)、日本語生涯学習者の動機づけの変化に関しては瀬尾 (2011) がある。本調査で追加した質問項目「日本語学習のきっかけ」は、日本語学習を始めたきっかけとして「日本文化」「ポップカルチャー」「日本旅行」のキーワードを明らかにした瀬尾 (2011) を参考に質問紙の作成を行った。そして、香港における JLPT 応募者や受験者、その属性に関するデータの詳細は、JLPT の香港における実施機関である研究会が、毎年発行する論文集『日本學刊』(阮 2010、2011、劉 2012、2013、2014) および研究会ウェブサイトの「日本語能力試験」の「統計資料」を参考にした。

### 4. 調査方法

- 1) 対象者：2015 年 11 月に研究会が実施した JLPT 応募者 (N4 と N5 の応募者のみ) を対象とした調査活動のために集まった香港の日本語学習者
- 2) 調査方法：調査協力者は質問紙に記入する方法で回答し、研究会の担当者が回収する。質問紙は選択回答法で、調査協力者が N4、N5 レベルのため、質問紙は中国語 (繁体字) で作成したものを使用する。
- 3) 集計方法：質問紙の回答とレベル、調査年を単純集計とクロス集計する。その他として自由記述回答の場合、中国語で書かれたものは日本語訳をする。本調査では比較のために宇田川ほか (2014) と同様に小数点以下 1 位までの表示とする。

## 5. 集計結果

### 5.1 調査協力者属性

調査協力者は460人で、内訳は以下表2から表5の通りである。

レベル別の協力者数はN4が235人、N5が225人である。

表2 レベル別協力者数

レベル	N4	N5
人数	235	225

年齢はN4、N5とも20代が最も多く、次いで30代、10代である。N5協力者に小学生が3人である。

表3 年齢の内訳

	5-9歳	10-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳
N4	0	32	140	34	18	11	0
N5	1	36	133	36	15	4	1
合計	1	68	273	70	33	15	1
割合	0.2%	14.8%	59.3%	15.2%	7.2%	3.3%	0.2%

表4 職業の内訳

	小学生	中高生	副学士 AD+HD ※1	大学生	大学院生	会社員	退職	無職	主婦	
N4	0	19	19	46	6	139	4	1	1	235
N5	3	16	16	77	4	103	4	2	0	225
計	3	35	35	123	10	242	8	3	1	460

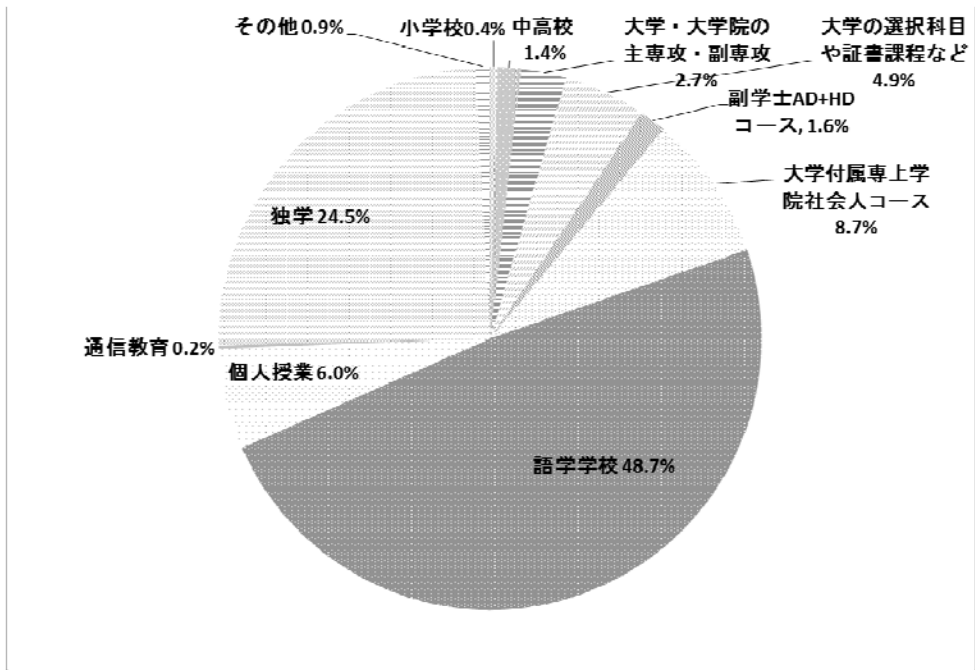
学習の場は2012年度の日本語教育機関調査（国際交流基金2013）では、民間の語学学校等、学校教育以外の割合が75.5%と報告されているが、機関調査は、機関代表者によって回答されているため、機関に属さない個人の学習者は含まれていない。本調査では中学校の科目として学習しつつ個人で語学学校に通っている学習者もいると予想したため、複数回答可とした。

表5 学習の場

	小学校		中・高校		副学士 AD/HDコース		大学・大学院の 専攻・副専攻		大学の選 択科目や 証書課程 など		大学付属 専上学院 社会人コ ース		語学学校		個人授業		通信教育		独学		その他	
N4	0	0	5	1.7%	4	1.4%	9	3.0%	13	4.4%	27	9.1%	121	40.9%	21	7.1%	1	0.3%	93	31.4%	2	0.7%
N5	2	0.8%	3	1.2%	5	2.0%	6	2.3%	14	5.5%	21	8.2%	148	57.8%	12	4.7%	0	0.0%	42	16.4%	3	1.2%
計	2	0.4%	8	1.4%	9	1.6%	15	2.7%	27	4.9%	48	8.7%	269	48.7%	33	6.0%	1	0.2%	135	24.5%	5	0.9%

※1 香港では高校卒業後、2年で副学士が取得できる「Associate Degree」もしくは「Higher Diploma」コースがある教育機関がある。

図1 学習の場



## 5.2 調査結果

### 5.2.1 日本に関するイメージの変化

「あなたにとって日本に関するイメージは以前と比べて、変わりましたか」という質問で、「全体的」および「カテゴリー別」にイメージの変化を調査した。回答は「かなり向上した」、「少し向上した」、「変わらない」、「少し低下した」、「かなり低下した」の5つの選択肢から選んで答える。結果は表6の通りである。

N4とN5全体では「少し向上」が40.7%と最も高く、「かなり向上」16.7%と合計すると57.4%となる。「少し低下」11.3%、「かなり低下」0.2%の合計は11.5%である。

次にN5の結果を比較してみる(表7)。2015年の「かなり向上」と「少し向上」の合計は59.6%である。同じく2012年の合計は40.9%、2013年の結果は40.6%であった。また、2015年の「少し低下」と「かなり低下」の合計は9.8%、同じく2012年の合計は21.2%、2013年の合計は23.9%であった。2015年において全体的なイメージの向上の割合が高く、イメージの低下の割合が低い。

表6 日本の全体的イメージ（全体およびレベル別）

	かなり向上	少し向上	変わらない	少し低下	かなり低下
N4	17.4%	37.9%	31.5%	12.8%	0.4%
N5	16.0%	43.6%	30.7%	9.8%	0.0%
計	16.7%	40.7%	31.1%	11.3%	0.2%

表7 N5の2012、2013年、2015年調査の比較

	かなり向上	少し向上	変わらない	少し低下	かなり低下
2015	16.7%	40.7%	31.1%	11.3%	0.2%
2013	11.5%	29.1%	35.6%	22.9%	1.0%
2012	9.3%	31.6%	37.8%	19.7%	1.5%

次に12項目の日本に関するイメージの変化(表8)では、「かなり向上」または「少し向上」のどちらか「向上」と選択したものは、「観光地として」、「日本料理や日本製の食べ物」、「日本の文化(漫画、歌、アニメを含むテレビ番組など)」が上位3つである。一方、「少し低下」または「かなり低下」のどちらか「低下」を選択したものは「日本の政治」、「日本の経済」、「就職先として」が下位3つである。

表8 日本に関するイメージの変化(カテゴリー別)

	かなり向上	少し向上	変わらない	少し低下	かなり低下
日本の全体的イメージ	16.7%	40.7%	31.1%	11.3%	0.2%
観光地として	35.0%	43.0%	16.3%	5.2%	0.4%
留学先として	11.5%	31.5%	47.6%	8.7%	0.7%
就職先として	6.5%	20.4%	51.5%	19.3%	2.2%
就職先としての香港の日系企業	6.5%	22.4%	52.8%	16.3%	2.0%
取引先としての日本の企業や香港の日系企業	3.5%	26.1%	59.3%	9.8%	1.3%
日本料理や日本製の食べ物	24.1%	49.8%	21.7%	4.1%	0.2%
日本の文化(漫画、歌、アニメを含むテレビ番組など)	25.7%	34.3%	19.1%	18.7%	2.2%
日本の文化(文学や歴史)	9.3%	33.9%	47.2%	8.7%	0.9%
日本のファッション	10.4%	34.3%	37.2%	17.2%	0.9%
日本の政治	1.3%	6.5%	52.4%	33.5%	6.3%
日本の経済	2.0%	13.5%	42.4%	37.2%	5.0%
日本の科学技術	10.7%	38.9%	39.3%	9.8%	1.3%

最後に、2014年の報告と同様に2012年、2013年と共通したカテゴリー4項目のみを比較してみる。2015年の調査で「観光地・旅行先として」のイメージについて「向上」と選んだ人の割合は78%であり、2012年の35.3%から2倍以上の増加である。次に「日本料理や日本製の食べ物」を選んだ人は73.9%、「留学先として」を選んだ人は43.0%で、

## 2015年香港の日本語学習者背景調査

いずれの項目も 2012 年から上昇している。「就職先として（日本での就職）」で「向上」を選んだ人の割合は最も低く、26.9%である。また、「低下」を選んだ人の割合は、「観光地・旅行先として」5.6%、「留学先として」9.4%、「就職先として（日本での就職）」21.5%、「日本料理や日本製の食べ物」4.3%とすべての項目において、その割合は下降している。

表9 N5の2012と2013年と2015年調査の比較

	かなり向上	少し向上	「向上」	変わらない	少し低下	かなり低下	「低」
2015 観光地・旅行先として	35.0%	43.0%	<b>78.0%</b>	16.3%	5.2%	0.4%	<b>5.6%</b>
2013 観光地・旅行先として	21.8%	44.0%	<b>65.8%</b>	23.1%	9.8%	1.3%	<b>11.1%</b>
2012 観光地・旅行先として	9.2%	26.1%	<b>35.3%</b>	41.6%	21.4%	1.7%	<b>23.1%</b>
2015 留学先として	11.5%	31.5%	<b>43.0%</b>	47.6%	8.7%	0.7%	<b>9.4%</b>
2013 留学先として	11.7%	26.2%	<b>37.9%</b>	47.0%	12.7%	2.3%	<b>15.0%</b>
2012 留学先として	5.5%	22.7%	<b>28.2%</b>	48.7%	19.7%	3.4%	<b>23.1%</b>
2015 就職先として(日本での就職)	6.5%	20.4%	<b>26.9%</b>	51.5%	19.3%	2.2%	<b>21.5%</b>
2013 就職先として(日本での就職)	7.0%	21.7%	<b>28.7%</b>	47.0%	20.4%	3.9%	<b>24.3%</b>
2012 就職先として(日本での就職)	5.0%	20.2%	<b>25.2%</b>	45.4%	22.7%	6.7%	<b>29.4%</b>
2015 日本料理や日本製の食べ物	24.1%	49.8%	<b>73.9%</b>	21.7%	4.1%	0.2%	<b>4.3%</b>
2013 日本料理や日本製の食べ物	24.6%	42.2%	<b>66.8%</b>	25.6%	6.7%	0.8%	<b>7.5%</b>
2012 日本料理や日本製の食べ物	16.0%	33.2%	<b>49.2%</b>	46.6%	3.8%	0.4%	<b>4.2%</b>

### 5.2.2 将来の日本語学習者数に関する予想とその理由

「将来、日本語の学習者数は増えると思いますか、減ると思いますか」という質問では表 10 のような結果になった。レベル別に見ると、「増える」とした人は N5 のほうが N4 より割合が高く、「減る」としたのは N4 の割合が高かった。

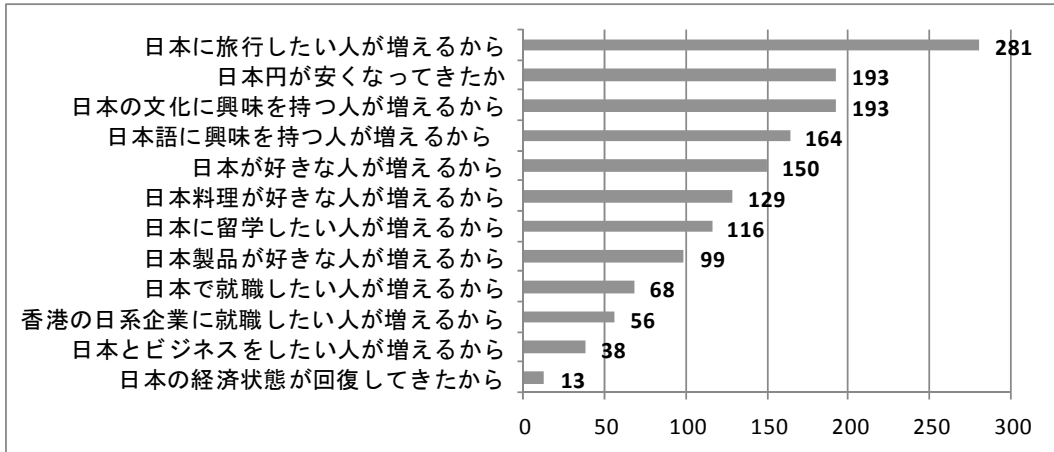
表 10 将来の学習者数の予想(全体およびレベル別)

	増える	減る	変わらない
N4	48.5%	23.4%	28.1%
N5	51.1%	19.1%	29.3%
計	49.9%	21.4%	28.8%

上記の回答に続いて、そう思う理由を複数選択可として選んでもらった。

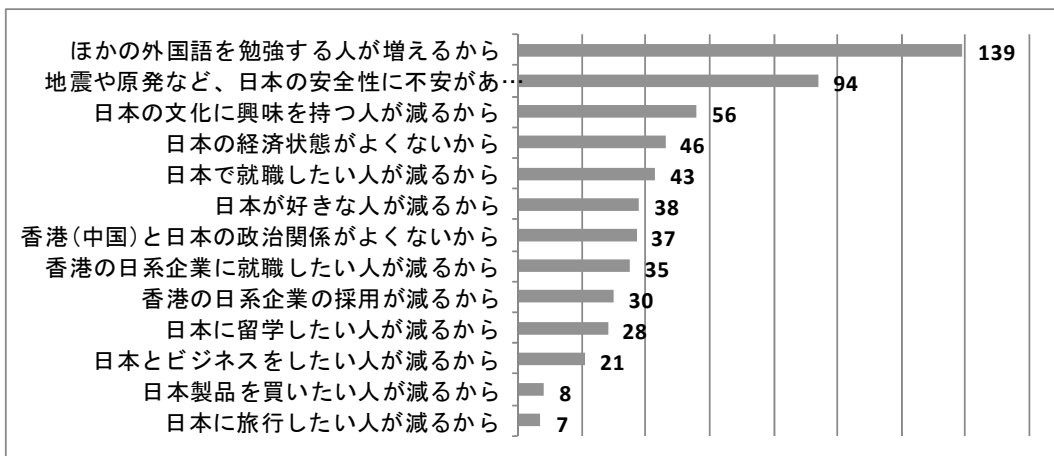
肯定的な理由では、「日本に旅行したい人が増えるから」が最も多く、「日本円が安くなったから」「日本の文化に興味を持つ人が増えるから」「日本語に興味を持つ人が増えるから」「日本が好きになる人が増えるから」である。

図2 日本語学習者が増えると予想する肯定的理由



否定的な理由で最も多かったのが「ほかの外国語を勉強する人が増えるから」で、この選択肢を選んだ人には「何語ですか」と増えると予想される言語を記入してもらった。韓国語 132、北京語 4、英語 2、ドイツ語 1 と、韓国語が圧倒的に多かった。理由の2番目以下は、「地震や原発など、日本の安全性に不安があるから」94人、「日本の文化に興味を持つ人が減るから」56人、「日本の経済状態がよくないから」46人、「日本で就職したい人が減るから」43人と続いている。

図3 日本語学習者が減ると予想する否定的理由



次に N5 レベルを比較してみる。「増える」「減る」とともに予想した割合が一番高かったのは、2015年である。ただし、その理由の詳細については、2012年、2013年で同じレベルでの結果詳細がないため、比較することはしない。



表 11 N5 の 2012 と 2013 年と 2015 年調査の比較

	増える	減る	変わらない
2015 年 N5	51.1%	19.1%	29.3%
2013 年 N5	48.4%	29.3%	22.3%
2012 年 N5	50.8%	29.4%	19.8%

### 5.2.3 日本語学習の目的

「あなたの日本語の勉強の目的は何ですか」という質問には、回答選択肢が 19 項目である。最も選択した割合が高かったのは、「日本語でコミュニケーションができるようになりたい」90.0%、次に「日本に旅行に行くため」83.0%、「日本語自身に興味がある」76.1%と続いている。木山ほか（2011）の調査によれば、選択した割合の多い上位 5 つは「日本語でコミュニケーションができるようになりたい」「日本語自身に興味がある」「日本が好きだから」「日本に旅行に行くため」「日本の文化（アニメ、漫画、ポップカルチャー）を知りたい」である。また宇田川ほか（2014）の調査では、「日本語でコミュニケーションができるようになりたい」「日本語自身に興味がある」「日本に旅行に行くため」「日本が好きだから」「日本の文化（アニメ、漫画、ポップカルチャー）を知りたい」であり、これまでの調査結果とほぼ同じである。ただし、これら調査結果には同じレベルでの詳細がないため、比較することはしない。

本調査で、「その他」として記入されていたものは、「ワーキングホリデー」、「製品の資料が読めるように」、「もう一つの特技を増やしたい」、「もう一つ言語を学びたい」、「広東語と日本語の関係について研究をしたい」、「剣道コースに日本人の先生がいる」、「日本語の文字が綺麗」、「知識を増やしたい」、「日本語の文章を翻訳したい」、「ナンパ」、「日本人女性と結婚したい」、「日本人の親戚がいる」、「他の言語より簡単」と各 1 件ずつであった。

表 12 日本語学習の目的

項目	割合
日本語でコミュニケーションができるようになりたい	90.9%
日本に旅行に行くため	83.0%
日本語自身に興味がある	76.1%
日本が好きだから	75.2%
日本の文化（アニメ、漫画、ポップカルチャー）を知りたい	67.2%
日本の食べ物について知りたい	45.9%
日本の文化（文学や歴史）を知りたい	45.7%
日本で働きたいため	29.3%
国際理解・異文化理解の一環として	27.4%
日本のファッションについて知りたい	27.2%
日本との親善・交流のため（短期訪問など）	24.6%
留学のため	19.3%
（香港での）就職のため	16.1%
昇進のため	16.1%
日本の科学技術を知りたい	14.1%
日本の政治・社会経済を知りたい	12.0%
今の仕事のため	8.7%
大学や資格試験の受験準備のため	7.0%
家族・親族など周囲の人に勧められたため	4.6%

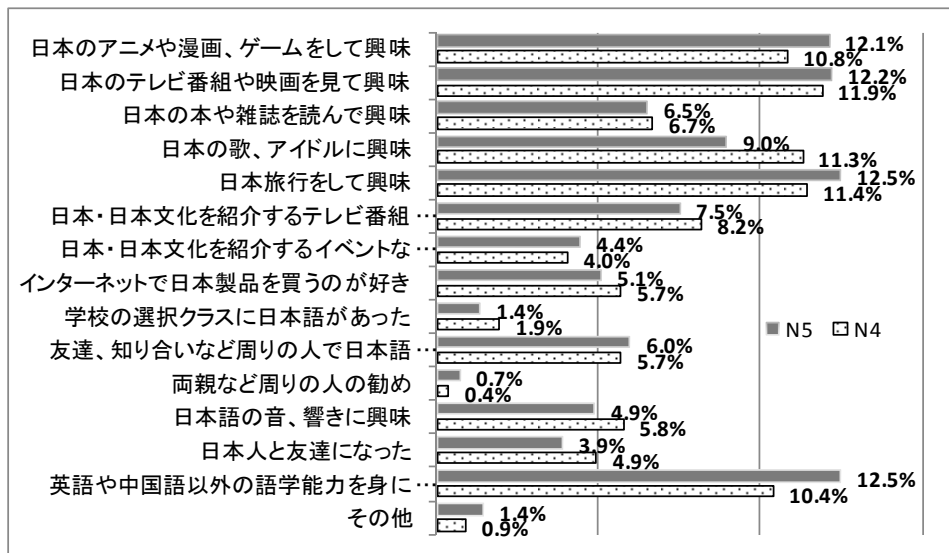
#### 5.2.4 日本語学習のきっかけ

本調査において新しく追加した質問項目である。「あなたが日本語の勉強をはじめたきっかけは何ですか」という質問で、全体で選択した人の割合が高かった上位 5 つの回答は、「日本のテレビ番組や映画を見て興味を持ったから」12.0%、「日本旅行をして興味を持ったから」11.9%、「日本のアニメや漫画、ゲームをして興味を持ったから」11.4%、「英語や中国語以外の語学能力を身につけたいと思ったから」11.3%、「日本の歌、アイドルに興味を持ったから」10.2%である。N4 と N5 とそれぞれで見ても上位 5 つは同じ項目であるが、N4 の上位 2 つは「テレビ番組、映画」11.9%、「旅行」11.4%で、N5 は「旅行」と「語学を身につけたい」が同じく 12.5%であった。さらにその他として記入されていたものは、「日本の薬の説明書が読めるようになりたいから」、「製品の資料が読めるように」、「ワーキングホリデーで日本に行きたい」、「もう一つの特技を増やしたい」など日本語学習の目的と共通しているもののほか「日系会社に勤めている」、「彼女が日本人」、「日本語の文字が好き」が各 1 件ずつあった。

表 13 日本語学習のきっかけ

	N4	N5	計
日本のアニメや漫画、ゲームをして興味	10.8%	12.1%	11.4%
日本のテレビ番組や映画を見て興味	11.9%	12.2%	12.0%
日本の本や雑誌を読んで興味	6.7%	6.5%	6.6%
日本の歌、アイドルに興味	11.3%	9.0%	10.2%
日本旅行をして興味	11.4%	12.5%	11.9%
日本・日本文化を紹介するテレビ番組や雑誌を見て興味	8.2%	7.5%	7.9%
日本・日本文化を紹介するイベントなどを見て興味	4.0%	4.4%	4.2%
インターネットで日本製品を買うのが好きだから	5.7%	5.1%	5.4%
学校の選択クラスに日本語があったから	1.9%	1.4%	1.7%
友達、知り合いなど周りの人で日本語を勉強する人がいたから	5.7%	6.0%	5.8%
両親など周りの方の勧めがあったから	0.4%	0.7%	0.5%
日本語の音、響きに興味を持ったから	5.8%	4.9%	5.4%
日本人と友達になったから	4.9%	3.9%	4.5%
英語や中国語以外の語学能力を身につけたいと思ったから	10.4%	12.5%	11.3%
その他	0.9%	1.4%	1.1%

図 4 レベル別日本語学習者のきっかけ



## 6. まとめ

本調査結果をまとめてみる。まず、「日本に関するイメージの変化」について、「全体的イメージ」は「向上」したといえる。特に「観光地・旅行先として」の日本のイメージは向上している。将来の日本語学習者が増えると予想する理由からも「円安」の影響は大きいといえる。日本政府観光局によると、2015年日本に訪れた香港人は1,524,300人（前年比伸び率64.6%）で、5人に1人が日本を訪問したことになり、人口当たりでは訪日外客1位であった。円安で旅行したい人が増え、旅行のために日本語を学習してい

る学習者も多いとみられる。今後も円安の状況が続くとすると、日本語学習者の減少の可能性は低いと思われる。一方で、「留学先」や「就職先」としての日本は、期待が低いように見える。香港でよい条件の職を得たい場合、広東語、英語、北京語と3言語能力が問われる。そのため留学先として英語圏を選択する人が多い。香港の日本語学習者にとって、「趣味や旅行のための日本語」だけでなく、「留学し、就職先や仕事の幅を広げるための日本語」という魅力も必要ではないだろうか。また、本調査では新たな日本語学習者と予想され増加している N5 レベルに注目した。日本語学習のきっかけは、日本のアニメ、ゲームなどのポップカルチャーによるものが多いものの、「語学能力を身につけたい」というように、語学学習を将来の可能性を広げるひとつの手段だと捉え、力を注いでいる学習者も多いことがわかった。つまり、香港の日本語学習者にとって、「語学」が日本語ではなくほかの言語に変わる可能性もありうるということではないか。ギブソン (2009) は、日本製品と日本文化が溢れている外国は香港以外に思い浮かばないと述べている。香港には日本料理店が多く、日本食や日本製品、日本文化が身近にある。また、年に何回も日本旅行する人も少なくない。香港で日本語教育に携わっている者は、日本に好意的な香港の日本語学習者のために実用的に役立つ日本語と将来に繋がる日本語の学習の場やリソースの提供について再検討する必要があるのではないかと思う。

## 7. 終わりに

本調査では、2015 年の香港の日本語学習者の背景およびその変化を把握することができた。香港における日本語教育のさらなる発展のためにも、学習者の学習動機、学習目的の変化を把握する調査を継続していく必要があると考える。そのためにはさらに掘り下げた分析ができるような調査内容を検討し、実施することが今後の課題である。また、木山ほか (2009) の課題にも挙げられていた年少者の状況把握も課題としたい。本調査協力者にもみられた年少者、10 代の日本語学習者は今後増加するのではないかと予想される。Hong Kong Diploma of Secondary Education Examination (DSE 試験) ※<sup>2</sup>における日本語受験者は 2014 年度年 147 名、2015 年度は 202 名と他の言語を引き離して受験者数は増えている。香港の教育制度に関わる若者の日本語学習の状況も今後の調査課題である。宇田川ほか (2014) は、日本語学習の維持拡大の留意点として新たに学習を始める人と現在の学習者に対してでは異なるアプローチが必要であると報告している。研究会としては、学習者の背景変化を把握する調査を継続し、日本語教育機関に対して教材やカリキュラムを再検討する参考になる調査結果を報告しつづけたと思う。

---

※<sup>2</sup> Hong Kong Diploma of Secondary Education Examination (DSE 試験) とは、中学 6 年生 (高校 3 年生) が、受ける学力評価試験で、その成績により受験できる大学が決まる大学入学のための試験でもある。受験申込者数は報考統計資料より  
<[http://www.hkeaa.edu.hk/DocLibrary/Media/FactFigures/2014\\_01\\_28\\_2014HKDSE\\_registrationstat.pdf](http://www.hkeaa.edu.hk/DocLibrary/Media/FactFigures/2014_01_28_2014HKDSE_registrationstat.pdf)>、  
<[http://www.hkeaa.edu.hk/DocLibrary/Media/FactFigures/2015HKDSE\\_registrationstat.pdf](http://www.hkeaa.edu.hk/DocLibrary/Media/FactFigures/2015HKDSE_registrationstat.pdf)>  
(2016 年 2 月 1 日最終閲覧) 香港考試及評核局のウェブサイトを参照  
<<http://www.hkeaa.edu.hk/en/hkdse/introduction/>>

## 【謝辞】

日本語能力試験協力委員会のメンバーである以下の方々には貴重なご提案やご助言をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

(名字の日本読みあいうえお順)

杉田 雅彦 在香港日本国総領事館広報文化部長

趙 達栄 香港日本文化協会副会長

陳 志誠 元香港城市大学教授

余 均灼 元香港中文大学教授

## 参考文献

- 宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志 (2013) 「香港の日本語能力試験受験者減少の要因を探る」『日本學刊』第16号,233-246
- 宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志 (2014) 「香港の日本語能力試験受験者減少の要因を探る」『日本學刊』第16号,233-246
- ギブソン壽美子 (2009) 「香港における社会人の日本語学習動機の一研究—動機の変化を中心に—」『第8回国際日本語教育・日本研究シンポジウム会議録 アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究』182-188 向日葵出版社
- 木山登志子・中野貴子・周宏陽・上田早苗・望月貴子・蘇凱達・青山玲二郎 (2011) 「2010年香港日本語学習者背景調査報告」『日本學刊』第14号,176-195
- 阮亦光 (2010) 「2009年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第13号,200-209
- 阮亦光 (2011) 「2010年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第14号,196-209
- 国際交流基金 (2013) 『日本語教育機関調査・2012年海外の日本語教育の現状』くろしお出版
- 瀬尾匡輝 (2011) 「香港の日本語生涯学習者の動機づけの変化—修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析から探る—」『日本學刊』第14号,16-39
- 香港考試及評核局<<http://www.hkeaa.edu.hk/en/hkdse/introduction/>> (2016年2月1日)
- 香港日本語教育研究会 (2013) 「日本語能力試験・統計資料」<<http://www.japanese-edu.org.hk/>> (2016年2月8日)
- 日本政府観光局<[http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism\\_data/pdf/2013\\_15\\_tourists.pdf](http://www.jnto.go.jp/jpn/reference/tourism_data/pdf/2013_15_tourists.pdf)> (2016年2月8日)
- 劉礪志 (2012) 「2011年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第15号,136-148
- 劉礪志 (2013) 「2012年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第16号,247-261
- 劉礪志 (2014) 「2013年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第17号,121-132
- 劉礪志 (2015) 「2014年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告」『日本學刊』第18号,134-144